

【2024年7月 月間予定表 —修学院校—】



7月の予定

1	月	
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	西京・洛北中適性模試②(小6SR対象) 高校入試報告会(中1・2保護者対象)
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	休校日 ※全校舎、教室を開けております。
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	『定着確認テスト』(小4~中2対象)
18	木	
19	金	
20	土	●『夏期講習』開始
21	日	●
22	月	●
23	火	
24	水	●
25	木	●
26	金	●
27	土	●
28	日	●
29	月	●
30	火	●
31	水	

※諸事情により予定を一部変更する場合があります。

【5月度のMVP】

●小5 H.Nさん

学校が終わったら直接塾に来て、自習して授業に臨んでくれています!!! やればやるだけ力がつく!!! これからも頑張ろう~!!!

●中2 S.Yくん

中2 Y.Kさん

中2 Y.Aさん

毎週金曜日に補習で頑張っています!!!

その結果を期末テストで発揮するで~!!!

その他にも多数頑張ってください!!!

7月行事について

●夏期講習・・・長い夏休みをいかに計画的に過ごすかで今後の学習成果は大きく左右されます。

【言ったもん勝ち!】

保護者の皆様、いつもお世話になっております。

今からおおよそ150年前。

アメリカ合衆国ペリー提督率いる米国艦隊が、江戸湾に現れたのです。黒船来航です。それまで鎖国をしていた日本は震撼です。当時日本の船といえば手漕ぎですから(笑)。やってきた黒船は鋼鉄でできた蒸気機関船。日本の大型船の約19倍の大きさでした。「日本はボコボコにされる!」と、恐怖におののくのが、ぶつうの感覚でしょう。

しかし、その黒船を見て、こう思った日本人がいたんです。

「僕は乗り込むぜ!」

吉田松陰です。当時24歳。そして、本当に命をかけて乗り込んだ。

また、その黒船を見てこう思った日本人もいました。

「黒船、オレもめっちゃ欲しい!」

坂本龍馬です。当時19歳。事実、その後、龍馬は本当に船を手に入れます。

その黒船を見て、こう思った日本人もいました。

「つくれるやろ、オレらも!」

事実、薩摩藩、佐賀藩、宇和島藩と3つの藩が数年で黒船をつくってしまいました。

「黒船怖い!」「不安!」「やばい!」ではなく、

「乗り込むぜ!」「俺も欲しい!」「俺らもつくれるでしょ!」

私たちの先祖たちは、大ピンチなのに、この状況に盛り上がっているのです。

ピンチの時こそ、「俺はやれる」って感覚。これが私たち日本人の大和魂なのです。

でも、こーいうひとたちって最近ではレアですよ。

逆境を自分の力で切り開こう! という発想をもてないひとと絶対増えましたよね。

平和ボケって言うんでしょうか。いままでだれかが守ってくれてたから何とかなる、みたいな。

いまの世の中を、日本の未来を憂いて犠牲になっていった幕末の志士たちが見たら、どう思うのでしょうか…。

住職でありながら、芥川賞作家・玄侑宗久さんは、座禅の修行をこう語っています。

「座禅中に後ろから板で叩かれますよね。叩かれるとまず、『なぜいま叩かれたのかな』と思うんです。体が揺れたのかな、とかですね。

ところが何度も叩かれていると、だんだん理由が思いつかなくなるんです。

すると、不思議ですよ。昔のことまで思い出します。

高校時代にあの友達に意地悪したから、いま叩かれたんだとか、小学生の時にウソついたからだとか。

そこまで記憶をよみがえらせて、私たちはいま受けている仕打ちを合理化しようとするんです。それが禅の懺悔法なんです!」

実は、ここに脳の使い方のヒントがあります。

ある現象が起きたときに、脳は、合理的な理屈を勝手に見つけ出そうとするのです。不合理なままでは落ち着かないのが脳なのです。

例えば、今日あなたが会う人に「ありがとう」と言ってみます。その人に全然ありがとうと思っていなくてもOKです。声に出して「ありがとう」と言ってみます。

すると、あなたの脳は落ち着かなくなるはずですよ。

「なんで、アイツにありがとうなんだ」と。脳は、その不合理を許しません。

そして、理由もなく「ありがとう」と言っているうちに、その人のどこかいいところ、感謝すべきところを、脳は勝手に探してしまうのです。

「あ、そう言えば、アイツ昔、アイスひと口くれたよな」とか。

「ありがとう」と言ってしまった以上、その人のちょっとでもいいところを探さないと、脳は落ち着かなくなってくるのです。

つまり、とりあえず、口に出してみたいのです。あとから脳が処理してくれる。

不安を感じたときほど、大言を吐いてみればいいのです。「オレが世の中変えてやる!」って。すると、脳がその言葉を合理化するために動き出します。

有言実行の成果が出やすいメカニズムってこういうことだったんですね。

しんどいや辛いのは当たり前。心配、不安もトーゼン。生きていって、そーいうこと。大事なことは、それらをどうとらえるか。不幸ととらえるか、魂の修行だととらえるか。

人間はこの世に何かを学びにきています。

人間は生きて以上、何かを学ばずにはいられない動物なんです。

あなたは何を学ぶために、この世にやってきましたか?

自分が学びたいものは何なのか。

それを知るために

また今日も学ぶのです。

塾長 山田 大介